

山 館

画家の大山晃一さん慈善個展

ウガンダ支援へ30万1200円

NPO法人へ寄贈



NPOへ寄付した恵子夫人(右から2人目)=館山

NPO法人のウガンダ支援に共鳴し、描いた作品をチャリティーで出展していた画家の大山晃一さんの個展がこの

ほぼ終了。絵画の売り上げ27万2000円、会場での募金箱の2万9200円の計30万1200円が安房文化遺産フォーラム

(愛沢伸雄代表)に寄贈された。油絵の画家として9年前に館山市に移住。同市では初めての個展となった。闘病のため、自宅と施設で過ごしているが、ウガンダ支援に感動し、関係者が作品を額装する

などして、個展にこぎ着けた。展示には大山さん買い置き額は不足で、館山銀座通りの小林民芸店オーナーが、チャリティーの趣旨と大山作品に感銘。格別優遇で小品も額装された。本紙報道もあって、3週間の会期中、延べ200人が来場。大山作品に魅せられた来場者が、破格の値段だったこともあって、会場の募金箱への寄付もあったという。売上金から額代金や案内はがき印刷代、郵便切

手代などの経費を差し引き、残高と募金が寄付された。贈呈は会場のギャラリイ葉葉であり、恵子夫人(75)からNPO関係者に現金で手渡された。

◆ ◆ ◆
闘病中だった大山晃一さんは17日、家族に見守られて永眠。80歳。葬儀・告別式は21日、遺言とおおりに親族だけで執り行われた。